

克己奉公 (滅私奉公)

中国で見つけた“有名小学校入学準備の為の”絵本から

文と訳・有為楠 君代

今日は、あまり聞き慣れない言葉です。

今月のこの言葉は、日本語では「滅私奉公」という訳語になっています。

・➤・➤・➤・➤・➤・

東漢(後漢)の初め、^{えいよう}潁陽(現在の河南省襄城縣)に祭遵^{さいじゆん}という人がいました。彼は劉秀^{りゆうしゅう}(後の後漢・光武帝)に身を寄せ、軍事と法律を担当しました。彼は公明正大、法の執行は厳正で、私情に流されることがない人でした。

ある時、劉秀のお気に入りの侍従が法を犯したので、祭遵は法に照らして侍従を死刑に処しました。後からそれを聞いた劉秀は激怒して、直ぐに祭遵を捕らえて来るようにと命じました。ある人が劉秀に言いました:「法を厳正に施行することは元々あなたさまが命令したことで、現在、祭遵は皇帝の法律をしっかりと守ったのですから、功労者であって、咎められることはなにもしていません！」

劉秀はよくよく考えて、その通りだと納得し、捉えられてきた祭遵を罰するどころか、却って彼の官位を上げてやりました。

祭遵は、私情をはさまず仕事をしたので、彼の死後、家の中に財産は何もありませんでした。

・➤・➤・➤・➤・➤・

言葉の意味:私欲を押えて、公の仕事を尊重する。自分を厳しく律して、公の仕事に専心することの喩え。

使い方:彼は公明正大、自分を律して公に尽くすので、人々から深く敬愛されている。

・➤・➤・➤・➤・➤・

小学館の中日辞典には、この「克己奉公」は「滅私奉公・私心を捨てて公のために尽くすこと」となっています。「私心を捨てて公のために尽くすこと」というのはその通りですが、もう一つの「滅私奉公」というのは

正しいかどうか疑問です。日本語にも「克己」という言葉がありますから、中国語をそのままに「克己奉公」とした方が良いでしょうと思います。

「滅私」も「私心をなくす」とか「私利・私情を捨てること」という意味ですから、訳語自体が間違っている訳ではないのですが、「滅私奉公」と続けると、私くらいの年齢の者には、戦時中の軍隊の号令が思い出されて、良い気持ちがしません。

戦時中に軍隊が中心となって国民に要求した「滅私奉公」は、「私利・私欲」どころか、「心」を捨てさせて、何も考えずに唯々お国のために犠牲になることを強いるものでした。そのくせ、終戦間際の満州で見られたように、ソ連参戦の報を掴むと、自分達とその家族の安全を第一に考え、国民のことを置き去りにして撤退をしました。

軍隊が国民に強いた「滅私奉公」を、軍隊自体はしなかったことになります。もっとも、当時の意識では、国民は奉仕の対象ではなかったのでしょうか。儒教の亞聖・孟子は、国民あつての国家だといっているのに、国民に奉仕する必要はないと考えたのでしょうか。何れにしても自分たちの利益を捨て去ることはしませんでした。他人に「滅私奉公」を要求する資格はありませんね。

中国は、賄賂が歴史的に長く容認され、賄賂に対する罪悪感が薄い社会と言われますが、時々この祭遵のように、自分に厳しく潔い人が出て来ます。最近では中華人民共和国の周恩来首相もそんな方だったと言われています。

勿論日本軍の中にも、部下のことを思い、戦場の一般人のことも考えた立派な軍人さんもいらしたとの話を聞いたことがあります。何事も一括りでは語れませんね。自分を律する気持ちは、文化云々というよりも人間性の問題だと考えます。



満柏画

挿絵：満柏氏